

集まれ! アーティストイニシアティブ

柴田尚 | NPO法人S-AIR | 札幌

柴田尚／1962年北海道生まれ。NPO法人S-AIR代表。OYOYO大通まち×アートセンター美術部長。
NPO法人S-AIR／1999年度より民間有志団体により、アーティスト・イン・レジデンス事業を開発。NPO法人となった04年度以降は、ICC（さっぽろ産業振興財團）との共催で事業を継続し、国内外のアートセンターとアーティストと独自のネットワークを形成している。1ヶ月以上滞在者の招聘実績は、08年度終了時で27カ国57名。また小学校などの教育現場にAIR形式を持ち込んだ「アーティスト・イン・スクール」やモエレ沼公園を舞台に冬をテーマにしたフェスティバル「SNOWSCAPE MOERE」など、コミュニティや北海道の風土を利用した新しい形のプロジェクトを実践している。

吉川由美 | はっぴい・はっぱ・プロジェクト(ダハ ブランニング・ワーク) | 仙台

吉川由美／仙台市生まれ。プロデューサー・演出家。はっぴい・はっぱ・プロジェクト主宰。
はっぴい・はっぱ・プロジェクト(ダハ ブランニング・ワーク)／コンサート、ダンスパフォーマンス、演劇などのプロデュース・演出を行なうかたわら、宮城県のえすこホールなど文化ホールの運営に関わり、さまざまなコミュニティ・プログラムをプロデュースしている。またアートNPOはっぴい・はっぱ・プロジェクトの取り組みとして、仙台の卸町、東北大学植物園、青葉通り、定禅寺通り、一番町四丁目商店街などでアートプロジェクトを開催。まちの再生とともにたちのコミュニケーション創出にインパクトを与えていた。井上山朋子「夏の旅へショベルトとまちの音」「wasted」、ART仙台場所、クリエイティブカフェ仙台の制作等に関わる。

中村武 | 街・建築・文化再生集団 (RAC) | 前橋

中村武／1946年前橋生まれ。NPO法人街・建築・文化再生集団副理事長、(株)アトリエ蔵代表。
NPO法人街・建築・文化再生集団(RAC)／Stock and Createを旗印に1999年にNPO法人を設立。地域固有の文化や歴史を次世代に継承し、それらを活かしたまちづくりを市民の手で行うことを目指している。具体的には、シンポジウム・研究会の開催、集落見学会、写真展などの啓発活動。集落・民衆調査、まちづくり提案等の調査・研究活動、登録文化財調査・推進、伝統工法による建築物の再生・耐震診断等を行っている。現在、かつて日本の近代化を下支えした群馬の養蚕集落とそこに残る生活文化を次世代に継承する方策を探している。

渡辺好明 | 取手アートプロジェクト | 茨城

渡辺好明／1955年神戸市生まれ、東京藝術大学美術学部教授、井野アーティスト・ヴァレッジ代表。
取手アートプロジェクト・取手アートプロジェクトは、市民と取手市、東京藝術大学の三者により実行委員会、実施本部を組織し、様々な人々が参加して共同で運営されている。1999年開始以来、市内全域で全国公募による現代アート展と地域在住作家の「オーブンスタジオ」を毎年交互に行ない、加えて特色のある企画を実施。アーティストの実験的な創作発表活動を支援し、作家と市民との交流を促進とともに、受け手(観客)やつなぎ手(アートコーディネーター・マネージャー)を育てることも目標のひとつと捉えて地域の文化基盤形成や人材育成をおこなっている。

大倉宏 | 砂丘館(旧日本銀行新潟支店長役宅) | 新潟

大倉宏／1957年新潟市生まれ。NPO法人新潟絵屋代表。砂丘館館長。
砂丘館(旧日本銀行新潟支店長役宅)／1999年新潟市が取得した歴史的建造物砂丘館(旧日本銀行新潟支店長役宅)の指定管理をおこなう団体として2005年に発足。NPO法人の画廊が自家業事を、ビル管理会社が建物の維持管理を担当。その母体団体のひとつであるNPO法人新潟絵屋は2000年、新潟市内に残る大正期の町屋を改装したスペースで企画展のみを行う画廊として活動をスタート。現在9年目を迎える砂丘館では自主企画展と芸術文化催事(コンサート、パフォーマンスなど)に加え、伝統家屋の空間を生かした生活催事(庭の教室、家の教室、季節のしつらい教室など)の3つを軸に活動を展開中。

武藤勇 | N-mark | 名古屋

武藤勇／1974年愛知県生まれ。野田利也と共にN-mark代表。
N-mark／1998年に「僕らの見たいアートと出会うために」を主旨にN-markを設立し、名古屋を中心に、展覧会の企画や、アートスペースの運営を行なってきた。そしてこのような小さな活動がより興味深く展開力を持つために、日本全国のアートスペースを訪ねる旅、「ミーティング・キャリア」を実現。全国にアートのネットワークを築くことができた。その後このネットワークを活かし、アートの流通路を開拓するプロジェクト「カフレイン」を展開。現在は名古屋のアートシーンの展開を模索中。

馬場英男 | NPO法人赤煉瓦俱楽部舞鶴 | 京都

馬場英男／1945年舞鶴市生まれ。NPO法人赤煉瓦俱楽部理事長、舞鶴市政記念館・まいづる智恵蔵館長。
NPO法人赤煉瓦俱楽部舞鶴／1991年以降、舞鶴市に残る明治・大正の赤煉瓦建造物に着目し、赤煉瓦を活かしたまちづくりに闘う活動を行なっている。2000年、京都府よりNPO法人認証。公の2施設の指定管理運営で音楽イベントの開催や現代アートイベントの開催および、全国の赤煉瓦に縁のある都市をつなぐ赤煉瓦ネットワークの運営などを行っている。また、本年6月に国重要文化財に指定された7棟をメインとした北吸地区的赤煉瓦倉庫群活用策「赤レンガアートスクール構想」実現に向けた検討に参画している。

アサダワタル | 築港ARC | 大阪

アサダワタル／1979年大阪生まれ。大和川レコード名義で活動。築港ARCチーフディレクター、南森町208メンバー。
築港ARC／「アートという“メディア”を介した多(他)分野交流」をテーマに、関西で活動しているアートNPOやアーティスト、またはアートに限らず、先進的でオルタナティブな社会活動を行うグループやスペースのネットワーキングを通じ、トークサロンの開催やweb/podcastでの情報発信を行っている。また多くの人がよりアートに関わりやすくするためのワークショップや地域出張イベントの企画、アートにまつわる様々な相談も受け付けている。

木ノ下智恵子 | 大阪大学コミュニケーションデザインセンター(CSCD) | 大阪

木ノ下智恵子／1971年大分生まれ。大阪大学CSCD特任講師。神戸アートビレッジセンター美術プロデューサー。「NAMURA ART MEETING'04-'05」実行委員。
大阪大学コミュニケーションデザインセンター(CSCD)／2005年4月に誕生した新しいスタイルの教育研究機関。科学技術・減災・医療・福祉・アートなど、様々な分野のメンバにより構成。専門知識をもつ者ともなる者の間、利害や立場の異なる人々の間をつなぐコミュニケーションの路線を構想・設計・実践のため、学内の人文育成、文理融合プログラム、学外の社会連携などに取り組んでいる。大学生や社会人対象の講座、学内拠点における対話プロジェクト「オレンジカフェ」、サイエンスショップ、社会連携プロジェクト「中之島コミュニケーションカフェ」、「知デリ」などを活用に行なう。

宮城潤 | NPO法人前島アートセンター | 沖縄

宮城潤／NPO法人前島アートセンター代表。
アサダワタル | 築港ARC | 大阪
木ノ下智恵子 | 大阪大学コミュニケーションデザインセンター(CSCD) | 大阪
花田伸一 | 元北九州市立美術館 | 北九州
宮川敬一 | ギャラリーSOAP | 北九州
野田恒雄 | 冷泉荘・345project・紺屋2023 (TRAVELERS PROJECT) | 福岡
佐藤恵一 | IAF SHOP* | 福岡
山出淳也 | BEPPU PROJECT | 大分
杉山知子 | NPO法人C.A.P.(芸術と計画会議) | 神戸
伊藤まゆみ | 神戸アートビレッジセンター | 神戸
野田恒雄 | 冷泉荘・345project・紺屋2023 (TRAVELERS PROJECT) | 福岡
杉山知子 | NPO法人C.A.P.(芸術と計画会議) | 神戸
伊藤まゆみ | 神戸アートビレッジセンター | 神戸
馬場英男 | NPO法人赤煉瓦俱楽部舞鶴 | 京都
馬場英男／1945年舞鶴市生まれ。NPO法人赤煉瓦俱楽部理事長、舞鶴市政記念館・まいづる智恵蔵館長。
NPO法人赤煉瓦俱楽部舞鶴／1991年以降、舞鶴市に残る明治・大正の赤煉瓦建造物に着目し、赤煉瓦を活かしたまちづくりに闘う活動を行なっている。2000年、京都府よりNPO法人認証。公の2施設の指定管理運営で音楽イベントの開催や現代アートイベントの開催および、全国の赤煉瓦に縁のある都市をつなぐ赤煉瓦ネットワークの運営などを行っている。また、本年6月に国重要文化財に指定された7棟をメインとした北吸地区的赤煉瓦倉庫群活用策「赤レンガアートスクール構想」実現に向けた検討に参画している。

加治屋健司 | 広島アートプロジェクト | 広島

加治屋健司／1971年千葉県生まれ。広島アートプロジェクト実行委員会執行委員。
広島アートプロジェクト／現代美術を中心とした展覧会、ワークショップ、講演会、イベントの実施を通して、広島の文化芸術の振興、都市や地域の再活性化、次世代の人材育成を目的とした事業を行う。2006年5月に設立。2007年4月に広島市内3カ所で展覧会「旧中工場アートプロジェクト」を企画・実施した。2008年2月には、ドイツ・ベルリン市で日独文化交流の展覧会「CAMPベルリン」を企画・実施し、海外への進出を果たす。同年11月に、柳幸典のディレクションで、海外から18組の作家を招き、合計49組の作家が参加する「広島アートプロジェクト2008「汽水域」を開催する。

宮川敬一 | ギャラリーSOAP | 北九州

宮川敬一／GALLERY SOAP代表。AIK:アートインスティテュート北九州理事。
ギャラリーSOAP／1997年古い和菓子屋の木造建築を改造して、GALLERY SOAPというアートスペースをスタート。美術、音楽、カンファレンス等様々なイベント企画。2001年、美術、音楽関係者、社会学者等の研究者達と協同でRE/MAP PROJECTを開始。2003年、音楽CDの制作・出版、音楽イベントの企画を目的としたレベル「soapland records」を設立。これまで多数のイベントと4枚のCDをリリースしている。2006年、アーティストや社会学者等とNPO法人AIK:アート・インスティテュート北九州を設立し、2007年に北九州市の歴史的建造物を利用した、北九州国際ビエンナーレ'07を開催した。

森下隆 | 慶應義塾大学アート・センター | 東京

森下隆／1950年福井生まれ。慶應義塾大学アート・センター所属、NPO法人舞踏創造資源代表。
慶應義塾大学アート・センター／土方翼アーカイブは、アスベスト館・土方翼記念資料館での土方翼の舞踏資料の収集・保存の活動を継承して、慶應義塾大学アート・センターにて1998年に設立された。以後、資料収集を継続するとともに、資料整備と資料のデジタル化をすすめ、さらに映像による資料創造や土方翼の舞踏の研究を行い、その成果を学内の施設で一般に公開している。また、出版物や展覧会への資料の貸出しや上映、レクチャーなどにも対応している。アーカイブは、国内外から舞踏研究者を中心に多数の訪問者があり、舞踏の調査・研究の拠点となるとともに、日本での舞踏センターとしての役割も担っている。

太田浩史 | 東京ピクニッククラブ | 東京

太田浩史／1968年東京生まれ。建築家。デザイン・ヌーブル級建築士事務所主宰。
東京ピクニッククラブ／2002年にピクニック生誕200年を記念して結成。多彩なクリエイターのコラボレーションによって現代のピクニックを提案する。都市居住者の基本の権利として「ピクニック・ライツ」を主張し、社交の場としての都市の公共空間の利用可燃性を追求。ユーザー一本位の公園サービスを提案する「ピクニキオスク」(05年)、芝を割り抜き移動させる「Grass On Vacation」(05年)を中心、オリジナルの紅茶、ピール、ケーキ等作品多数。07年、千葉県柏の葉にて「ピクニック・エキスポ」、08年には英國ニューカッスル/グーツヘッドにて「PICNOPOLIS」を開催、誰もが参加可能なアートイベントとしてピクニックを展開する。

中村誠 | SMF(Saitama Muse Forum:設立準備中)

中村誠／1954年名古屋生まれ。ヒアシンスハウスをつくる会会話人・ヒアシンスハウスの会運営委員。アートプラットフォーム主宰。芸術資源開発機構(ARDA)設立会員。埼玉大学非常勤講師。埼玉県立近代美術館学芸主幹。
SMF／県内の様々なジャンルのクリエイター、施設関係者、支援者の機能のネットワークづくりを目指す。平成16年度文化庁文化プログラムアーティスト事業として実施した「さいたまアートぶらり」とふおーむ形成準備事業」を契機に構成され、現在、県内の5つのミュージアムを核にLINK!ミュージアムからアートの風を!」を実施している。開催中の「アート童菴フェスタ」はこの事業の核心をなす。美術、建築、舞踊、大学、地域活動関係者等、様々な方々の協力により、地域の人財・情報・スペース・資金をつなぎ、芸術活動の活性化を通して、コミュニティの形成やまちづくりに寄与することをめざしている。

池田修 | BankART1929 | 横浜

池田修／1957年大阪生まれ。BankART1929代表、PHスタジオ代表。
BankART1929／歴史的建造物等を活用し、芸術文化を軸に、都心部再生を目的とした公設民営の新しいあり方を探索。2004年横浜市の実験事業としてスタートし、06年度から本格事業へ。旧第一銀行を活用した「BankART1929 Yokohama」と元湾岸倉庫を利用した「BankART Studio NYK」の2つの建物を基に、美術、建築、パフォーマンス、音楽等あらゆるジャンルで、スタジオ、スクール、カフェ・パブ、ショップ、コンテンツ制作をベースにしながら、主催事業、コーディネート事業等を活発に行なう。

相馬千秋 | 急な坂スタジオ | 横浜

相馬千秋／06年急な坂スタジオ設立、以後ディレクター。
急な坂スタジオ／2006年10月オープン、07年5月にNPO法人化。横浜市創造界隈形成事業の一環として、市営の結婚式場であった老松会館の建物を転用、舞台芸術を中心とした稽古場として活用。「稽古だけじゃない稽古場」というキャッチフレーズのもと、創造のプラットフォームとして人材育成からカเฟートーク、プロデュース公演まで幅広く事業展開している。08年度は「町に出る」をスローガンに、野山・山野動物園での演劇公演や吉田町での街頭パフォーマンスを実現するなど、最先端の舞台芸術と街との新しい関係性を探求している。

西川武臣 | 横浜開港資料館 | 横浜

西川武臣／名古屋生まれ横浜開港資料館主任調査研究員博士(史学)／開設準備から30年にわたり資料館の専門職員として活動。7人の専門職員を統括する。
横浜開港資料館／1981年開館。旧館は市指定文化財の旧英國領総領事館。ベリーオブソンが米航便し日米と親交約縛結交渉が行われた由緒を持つ地でもある。1859年、通商条約によって開港した横浜は、欧米文化の受容地となるとともに、貿易港として一気に発展した。資料館は、これらの横浜の歴史を物語る資料を集め、展示・講座・出版等で市民に普及・還元している。(財)横浜市ふるさと歴史財団は横浜市出資の公益法人であるが、2006年度から指定期管理者として横浜市歴史博物館、都市発展記念館など5施設を管理運営している。

嘉藤笑子 | Art Autonomy Network[AAN] | 横浜

嘉藤笑子／AAN共同主宰。東京・向島学会理事、沖縄・wanakio実行委員等。武野美術大学講師。
Art Autonomy Network[AAN]／2005年に設立したArt Autonomy Network[AAN]は、国内外の規模アート組織の情報収集とアーカイブを基盤としたネットワーク活動を行なっている。これまで全国のアート・ニシアティヴが集う「SHOWCASE」やアーティストが公開型プレゼンを行う「ポートフォリオ・ミーティング」、アーカイブの勉強会「アーカイブ・ミーティング」を継続的に開催。国際的で自律的な芸術活動を支援していくためのプラットフォームを提供している。

西田司 | Y-GSA (横浜国立大学大学院建築都市スクール) | 横浜

西田司／建築家/横浜國立大学大学院助手。1976年生まれ。2004年オンド・アイン設立主。著書に『ロジボン』他Y-GSA(横浜國立大学大学院建築都市スクール)／「都市・横浜」から建築と都市の課題を発信する。現代都市の特徴的な問題を時間・空間的に捉え、それを明らかにすると共に、次世代の都市環境を包括的にデザインする実践的スタジオ/プログラムを行う。少人数制で建築家養成を行なう修士課程。馬車道にスタジオを構える。近作に黄町バザール「日の出スタジオ」出版物に「建築をつくることは未来をつくることである」山本理顕(校長)、北山恒、飯田善彦、西沢立衛。(TOTO出版)、「建築の新しさ、都市の未来」(蔵国社)。

長谷川仁美 | ミアカビデオアーカイブ | 横浜

長谷川仁美／福岡県生まれ。慶應義塾大学大学院美学美術史専攻修了。ミアカビデオアーカイブ代表。
ミアカビデオアーカイブ／2006年にフィルム以外の美術の映像の保存、活用を行なう組織として発足。当初はBankART Studio NYK、現在はZAIM、横浜に拠点を置き、アジア地域の美術映像の保存、活用を行なう。対外的な活動としては海外のアーティストの映像作品展示や上映、期間限定のライブラリーを実施したり、海外ではレクチャーやフィルムフェスティバル参加を通じて若いアーティストの紹介とサポートを行なう。また、美術と社会に関わるような議論の場としても機能することを目指して、トークやディスカッションも企画している。

山野真悟 | 黄金町バザール | 横浜

山野真悟／1950年福岡生まれ。横浜市立美術館学芸主幹。
黄金町バザール／2007年11月実行委員会発足。横浜市中区黄金町、初音町、日ノ出町の元達賀飲食店や、新しく完成した京急高架下、TOKYO STUDIO 2008に運動したかたちで、地域と密着した「黄金町バザール」を現在展開中。

小川希 | Art Center Ongoing | 東京

小川希／1976年東京生まれ。Art Center Ongoing代表。
Art Center Ongoing／Art Center Ongoingは、いまの時代を担う必見アーティストを紹介するギャラリースペース、新旧アートブックの閲覧も可能な交流の場としてのカフェ&バースペース、そして独自のネットワークにより編纂した広範なアーティスト情報を提供するライブラリースペースを併設する芸術複合施設。シンポジウムやライブ等のイベントも積極的に行い、現在進行形の表現の可能性を探っている。

山出淳也 | N-Mark | 名古屋

山出淳也／1970年生まれ。NPO法人BEPPU PROJECT代表事務官、n.d.a代表/アーキテクト。
NPO法人 BEPPU PROJECT／大分県別府市を活動拠点とするアートNPO。これまで現代芸術の紹介や教育普及活動、アート・マネージャー育成講座、出版やリヨーベーションなど様々な事業を実施してきた。現在は、2009年に複合型国際芸術フェスティバル「BEPPU PROJECT 現代芸術フェスティバル 2009 混浴温泉世界」を開催を目標に活動。これらの活動や計画は、誰かから頼まれたわけでも求められていたわけではなく、「この場所で自分たちが見たい、経験したいことを、自分たちの手によって実現しようとすること」、これがBEPPU PROJECTの活動理念。